

〔松田教授開講拾週年記念論文〕

「ヒステリー性失聲症ノ臨牀的觀察

金澤醫科大學耳鼻咽喉科學教室(主任松田教授)

富山縣産業組合第一病院耳鼻咽喉科

醫學博士 豊田 文 一

B. Toyota

(昭和16年7月11日受附)

内 容 抄 録

私ハ「ヒステリー性失聲症」ノ6例ヲ經驗シ、ソノ臨牀像ニ就キ記述シ、併セテ本邦文獻ニ現レタ「ヒステリー性失聲症」ニ就キ總括的觀察ヲナシ、ソノ性別的觀察、

年齢的觀察、職業的觀察ヲナシ、更ニ誘因ニ就キ述ベ、喉頭像ニ就キ觀察シ、診斷及ビ治療ニ關シ、3ノ卑見ヲ披瀝シタ。

目 次

第1章 緒 言

第2章 自驗症例

第3章 總括的觀察

第1項 性別的關係

第2項 年齢的關係

第3項 職業的關係

第4項 誘 因

第5項 喉頭像

第6項 診 斷

第7項 療 法

第4章 結 論

引用文獻

症例摘録表

第1章 緒 言

耳鼻咽喉科領域ニ於テ「ヒステリー性疾患」ニ遭遇スルコトハ左程珍シイコトデハナイ。併シソノ内興味ノアルノハ喉頭ニ現レル場合デ、之ハ主トシテ「ヒステリー性失聲症」ノ形デ來ル。「ヒステリー性失聲症」ハ「ヒステリー性性格」乃至ハ全身的ニソノ徵候ヲ示サナイモノハ尠クナイ。所謂單一症候ノ一現象トシテ來ルコトガ多イガ、此ノ如キ場合果シテ「ヒステリー性失聲症」ト斷定シテヨイカ如何カニハ疑義ヲ唱ヘル

人モアル。Marx ハ神經性失聲症 (Psychogene Aphonie) ト稱スベキヲ可トシ、Engelhart ハ機能性聲音障碍 (Funktionelle Stimmstörung) ト唱フベキトシテキル。併シ臨牀上本症ノ成立ニハ喉頭ノ器質的變化ノ先驅アル場合ニ於テモ、ソノ發現スルヤ必ズ精神價值ノ低下或ハ抵抗力ノ減弱ヲ假定シテモ妥當ヲ缺クトモ考ヘラレナイ。故ニ我々ハ臨牀上「ヒステリー性失聲症」トシテ取り扱ツテモヨイト思フ。曾ツテ私ハ本症

ノ5例ヲ經驗シ、ソノ概要ヲ大日本耳鼻咽喉科會北陸地方會第33回集會(昭和11年)ニ於テ發表シタ。而シテ最近再ビ本症ノ1例ヲ得タルガ故

ニ諸症例ノ臨牀像ヲ記載シ、更ニ本邦文獻ニ現レタル本症ノ總括的觀察ヲ行ツテ見ヤウト思フ。

第2章 自 驗 症 例

第1例 28歳，♀，農。

(本例ハ昭和9年夏富山縣黒部川水害ノ爲金澤醫科大學醫療救護班ノ一員トシテ出張シタ際得タ症例デアル)。

主訴 嘔聲 約1週間前黒部川本流ノ決潰ノ際、居村流出シ、大聲ニテ叫ビタルコトガアル。其ノ後急ニ嘔聲ヲ來シ、如何ニ努力シテモ有響性ノ音聲ガ出ナイ、幸ニモ我ガ醫療救護班ノ到着スルヤ、早速診ヲ乞フタモノデアル。

全身所見トシテハ著明ノ變化ハナイ。又「ヒステリー性徵候」モ見出サナイ。耳、鼻、咽喉ニハ著變ヲ認メナイ。喉頭ヲ檢スルニ 兩側聲帶ハ輕度ニ發赤シテキル。發聲時ニ於ケル聲帶ハ紡錘形ノ裂隙ヲ殘シ、内筋麻痺ノ状態デアル。發聲セシメルト音聲ハ殆ド失聲ニ近イ。咽頭、喉頭粘膜ノ知覺ニハ異常ガナイガ、只絞扼運動ハ鈍デアル。又咳嗽發作ヲ行ハシメタ所有響性デアル。

以上ノ病歴並ニ喉頭所見ヨリ「ヒステリー性失聲症」ト診斷シタ。

治療 患者ニハ必ズ治癒スルト斷言シ、喉頭注入器ニ冷水ヲ滿シ、患者ニハ極メテ貴重ナル藥品ナリト稱シツ、靜カニ喉頭ニ注入シタ。次ニ Gutzmann ノ練習法ニ準據シ、喉頭ヲ外部ヨリ壓シ、充分吸氣ヲ行ハセ、呼氣ノ始メニ「アー」ト母音ヲ發セシメタ所、有響性ノ音聲ヲ得、更ニ數回之ヲ練習サセタ後ニハ、嘔聲ハ殆ド消失シタ。

第2例 20歳，♀，娼妓。

主訴 嘔聲 3日前精神の肉體的ニ可ナリノ衝動ガアリ、有響性ノ音聲ハ出ナクナツタト稱シテキル。嘔聲ノ他身體的ノ苦痛ヲ伴ツテキナイ。

全身の所見ニハ變化ハナイ。耳、鼻、咽頭ニハ特記スベキ所見ヲ認メナイ。喉頭所見ハ聲帶自身ニハ發赤ハナイ。併シ發聲セシメルト聲門間ニ紡錘形ノ間隙ヲ殘ス。即チ内筋麻痺ノ状態デアル。喉頭ノ知覺ニ異常ハナイ。咳嗽發作ヲ發セシメタ所有響性デアル。眼科的ニ輕度ノ視野狹窄ヲ認メ、角膜反射ハ鈍デアル。

以上ノ所見ヨリ「ヒステリー性失聲症」ト診斷シタ。

治療 2%「クロール・カルチウム」液ノ靜脈注射ヲ行ヒ、喉頭部ノ熱感ヲ味ハ、シメツ、發聲ノ可能ナルコトヲ斷言シ、Gutzmann ノ練習法ニ準據シ、喉頭ヲ外部ヨリ壓迫シ、「アー」ト母音ヲ發セシメタ所有響性ノ發音ヲ得、更ニ約10分間、練習法ヲ續行シ、略満足ナル効果ヲ得タ。

第3例 30歳，♀，商。

主訴 嘔聲、眩暈感 數日前風邪ニ罹ツテ以來、眩暈感、嘔聲ガ起リ、殊ニ嘔聲ハ日ニ日ニ増強シ、現在ハ殆ド失聲ニ近イ。

患者ハ可ナリ憔悴シテキル。内臟諸器官ニ變化ハ見ラレナイガ、膝蓋髓反射及ピアヒレス髓反射ハ昂進シテキル。又左側頸部ニ知覺鈍麻ガアル。ロンベルグ氏症候ハ輕度ニ見ラレル。局所所見トシテハ鼓膜ハ正常、聽力ノ障礙ハ認メラレナイ。鼻腔、咽頭モ亦略正常、喉頭所見トシテハ聲帶ノ中等度ノ發赤ガ存在シ、聲帶ハ内筋側筋麻痺ノ状態ニアル。咽頭頭粘膜ニハ知覺異常ナク、絞扼運動ハ著明デアナイ。咳嗽發作ハ有響性デアル。眼科的ニ視野狹窄ハ認メラレナイ。

以上ノ所見ヨリ「ヒステリー性失聲症」ト診斷シタ。

治療 先ヅ1000倍鹽化アドレナリンノ喉頭注入ヲ行ヒ、患者ニハ發聲出來得ルト充分自信ヲ得セシメ、Gutzmann ノ呼吸練習ヲ行ツタ。數分間ノ練習ニヨリ可ナリ良好ナ有響音ヲ出シ得タガ、3日間同様な方法ヲ續行シ治癒セシメ得タノデアル。

第4例 31歳，♀，藝妓。

主訴 嘔聲 5日前唄練習中喫煙シタトコロソノ煙ニ噎セ返リ、著シイ咳嗽發作ガアリ、ソレ以來低音ハ發聲出來ルガ、高音ハ全ク失聲ノ状態ニアル。

全身のニ著變ナク、「ヒステリー性徵候」ハ認メラレナイ。耳、鼻、咽頭ニ異常ハナイ。喉頭鏡所見トシテハ聲帶ニ輕度ノ血管擴張ガ見ラレル。高音發聲時ノ聲帶所見ハ間筋麻痺ノ状態デアル。低音ニ於テハ略正常ニ近イ。喉頭ノ知覺異常ハナイ。咳嗽發作ハ有響性デアル。眼科的ニ視野ノ狹窄ハ認メラレナイ。

以上ノ病歴及ビ臨牀的所見ヨリ「ヒステリー性失聲症」ト診斷シタ。

療法 有響性發聲ノ可能ナルコトヲ暗示シ、喉頭ニ冷水ノ注入ヲナシ、次ニ喉頭部ニ感應電流ヲ通ジ、同時ニ Gutzmann ノ練習法ヲ行ツタ所數分間ニシテ有響性音ヲ得ルニ至ツタ。

第5例 38歳、♂、農。

主訴 失聲 患者ハ約20日前ヨリ「ヒステリー」ノ診断ノ下ニ内科ヘ入院加療中ノモノデアル。「ヒステリー」ノ定型の徵候ヲ有シ、視野ノ狹窄モ認メラレル。突然「ヒステリー性後弓反張」ヲ發シ、失聲トナリ、私ノ診ヲ乞フタモノデアル。喉頭所見ハ聲帶ハ蒼白色デアルガ、内筋麻痺ノ状態ヲ示シテキル。

病歴及ビ喉頭ノ所見ヨリ「ヒステリー性失聲症」ト診断シタ。

療法 喉頭ノ冷水注入ヲ行ヒ、Gutzmannニ從ヒ、喉頭ヲ外部ヨリ壓迫シナガラ發聲セシメルト瞬時ニシテ有響性ノ發聲ヲ得タ。併シ其後數回後弓反張ノ發作ト共ニ失聲ヲ來シ、同様ノ方法ニヨリ瞬時ニシテ治癒セシメ得タ。

第6例 51歳、♀、農。

主訴 嘔聲、心悸昂進

2日前農作中突然喉頭部ニ球狀ノ物體ガ上下スル様ニ感ズルト共ニ心悸昂進ヲ起シ勞働ニ耐エラレナクナツタ。休息後音聲ハ嘔聲トナリ、如何ニ努力スルモ有

響性トナラナイトテ私ノ診ヲ乞フタモノデアル。

患者ハ依然喉頭部ノ異物感ヲ訴ヘテキル。胸部所見ハ肺、心臟共ニ變化ハナイガ、脈搏98、體溫36.3°C、アヒレス腱反射、膝蓋腱反射ハ低下シテキル。眼科ニ受診セシメタガ視野ノ狹窄ハ認メラレナクツタ。耳鏡所見ニ變化ハナイガ、鼻鏡所見ニ於テハ慢性上顎洞炎ノ像ヲ示ス。喉頭ニ變化ハナイ。喉頭像ハ聲帶ハ蒼白デアルガ兩側ノ反回神經麻痺ノ状態ヲ示シテキル。但シ咳嗽發作ハ有響性デアル。「レ」線的ニ胸部臟器ニ於テ反回神經麻痺ノ原因タリ得ルモノヲ認メナイ。

以上ノ所見ヨリ「ヒステリー性失聲症」ト診断シタノデアル。

療法 入院セシメ安静ヲ命ジタ。而シテ音聲ハ必ず回復スルト信ゼシメ、喉頭部ニ感應電流ヲ通ゼシメタル後、喉頭ヘ1000倍ノ鹽化アドレナリンヲ注入シ、Gutzmannノ呼吸練習ヲ行ツタ。最初ハ充分ナ効果ヲ擧ゲ得ナクツタガ、2、3日後ヨリ漸次有響性トナリ約1週間ノ治療ニヨリ快癒シタ。

(尙第2例ヨリ第5例マデハ福井縣三國病院勤務中經驗シタ症例デアツテ、當時ノ病院長眞田博士並ニ眼科醫長高澤博士ノ御援助ヲ得タコトヲ記シテ感謝ノ意ヲ表スル)。

第3章 總括的觀察

本邦ニ於ケル「ヒステリー性失聲症」記載ノ嚆矢ハ久保(猪)教授ニヨレバ山田鐵藏氏(明治31年)報告ノ症例ニシテ、12歳ノ少女、感冒後嘔嘔ヲ來シ、2ヶ月間不治ノトコロ、喉頭外部ヨリ按摩シテ發聲セシメ、第2日目ニハ蟲ノ鳴ク様ナ50音ヲ出シ、第4日目ハ嘔聲ナガラ普通ノ聲ヲ出シ、2週間ニシテ治癒セリト述ベテキル。其後ニ於ケル本邦文獻ヲ涉獵シテ、自驗症例ト共ニ36例ヲ得タ(昭和16年3月迄)。

今此等文獻例ト自驗症例トヲ總括シ、「ヒステリー性失聲症」ノ臨牀像ノ觀察ヲナシ、併セテソノ治療方面ニ就キ卑見ヲ述ベテミヤウト思フ。

第1項 性別的關係

「ヒステリー」ハ往時婦人生殖器ヨリ發生スルモノト考ヘラレテキタガ、生殖器病ナキ婦人、

男子及ビ小兒ニ見ラレルコトニヨツテモ、ソノ正鵠ヲ得テキナイコトガ明ラカデアル。併シ本疾患ハ虚弱ナ婦人ニ多クミラレルコトハ事實デアル。成書ノ記載ニヨレバ男女ノ比ハ1對7—8デアルト云ハレル。「ヒステリー性失聲症」ニ於テハ私ノ得タ36例中♂11例(30.0%)、♀25例(70.0%)デ、「ヒステリー性失聲症」ハ成書ノ記載ニミラレル「ヒステリー」ノ男女ノ比率ヨリモ、男子ニ於ケル頻度大デアル。

第2項 年齡的關係

「ヒステリー」ハ各年齡ニミラレルモノデアル。「ヒステリー性失聲症」モソノ年齡ノ分布ハ廣イ。本邦文獻例ノ最年少12歳(山田、岡田)、最高71歳(白石)ニシテ、ソノ分布状態ハ表示スル如ク21—30歳ノモノ最モ多ク14例(42.2%)、31—40歳9例(27.3%)、20歳迄6例(17.2%)、

年齢的關係

文獻 年 齡	本邦文獻例		Treupel		Amersbach	
	數	%	數	%	數	%
20歳以下	6	17.2	22	33.8	2	1.7
21—30歳	14	42.2	29	44.6	52	44.8
31—40歳	9	27.3	6	9.2	53	45.7
41—50歳	1	3.0	7	10.8	9	7.8
51歳以上	3	9.1	1	1.6		
合 計	33		65		116	

51歳以上3例(9.1%)、而シテ41—50歳最モ尠ク1例(3.0%)デア。Treupelハ65例ノ本症ニ於テ21—30歳最高ニシテ144.6%、20歳以下之ニ次ギ33.8%、41—50歳10.8%、31—40歳9.2%、而シテ51歳以上最モ尠ク1.6%ニ過ギナイ。Amersbachハソノ116例ニ於テ31—40歳45.7%ニシテ最高ヲ占メ、次デ21—30歳44.8%、41歳以上7.8%、20歳以下1.7%デア。要スルニ各々多少ノ懸隔ガアルガ概ネ20—30歳代ニ本症ノ發生スルコトガ最モ多イ様デア。

第3項 職業的關係

職業ノ明ラカニ記載サレタ20例ニ就テ觀察スルニ兵士及ビ藝娼妓ハ各々5例ニシテ最多、次デ農業3例、看護婦、女中各々2例、商業、尼僧、事務員各々1例デア。即チ兵士及ビ藝娼妓ニ本症ノ多イノハソノ成因ト關聯シ興味アル事實ト思フ。兵士ハ常ニ精神的緊張ノ裡ニ生活シ、且ツ精神的激動ヲ受ケル機會ガ多イ。而モコノ場合體質的ニ「ヒステリー性素因」ノアル場合、上記ノ條件ニヨリ「ヒステリー」トナリ得ルコトハ容易ト考ヘラレル。又藝娼妓ニ於テハ生殖器疾患ニ罹ルコトガ尠クナイ。「ヒステリー」ガ希臘語ノ子宮 Uterus ノ義デア。如ク、婦人ニ於テ生殖器疾患ガ精神的ニ與フル影響ノ甚ダ大ナルコトヲ考フルトキ、職業的ニ藝娼妓ニ「ヒステリー性失聲症」ガ多クミラレルコトハ注意スベキ事實デアラウ。

第4項 誘 因

所謂「ヒステリー性體質」トシテ、本疾患ニ罹

リ易イ體質ガアル。同一刺戟ニヨリ容易ニ本症ヲ惹起スル人ト然ラザル人ガアリ、或ハ何等ノ外傷的誘因ナクシテ之ヲ發スル人ガアル。コノ如キ體質ハ遺傳的ニ受ケルコトモ多ク同一家族ニ屢々之ヲ見ルコトガアル。ソノ本態ニ關シテハ諸家ノ見解ハ未ダ一致シテキナイ様デア。精神の價值ノ低下乃至抵抗力ノ減弱ハ略認メラレテキル所デア。「ヒステリー性失聲症」ニ於テモ同様ノ状態ニアルト考ヘルコトガ出來ヤウ。本症ノ誘因トシテ種々ノ條件ガアルデア。ラウガ主トシテ精神的外傷デア。蒐集シタ症例ニ求メテミテモ、明ラカニ精神の衝動ト認メラレルモノ10例デ最高ヲ示シテキル。而シテ誘因不明ノモノ7例、又感冒後ニ起ツタモノ、或ハ病後(「パラチフス」)失聲ヲ來シタルモノ各々7例、過勞ニヨツタモノ6例、外傷3例、ソノ他感電、聲破障碍各1例宛ガ記載シテアル。精神の衝動ハ精神の過勞、驚愕、不安、脅迫、悲嘆等デア。病後ニ惹起セラレタモノ、或ハ過勞、肉體的外傷等ハソノ中ニ精神の激動ノ動機ガ多分ニ含マレテキルト考ヘネバナラナイ。Freud一派ハ「ヒステリー」ハ總テ性ニ關係アル精神的原因ニヨリ起ルモノデアト説イテキルノデア。之ハ一般ニ承認スル所トハナラナイ。併シ文獻例ニ於テ性ニ關係アル動機ヲ以テ誘因トスル場合ハ可ナリ多ク認メラレル。即チ月經中(南谷)、妊娠(渡邊)、流産(久保)、子宮手術(渡邊)、Wohllust(光本)、子宮發育不全(緒方)等之デア。女性ノ性的現象ガ「ヒステ

リー性失聲症發生ニ色々ノ意味ニ於テ關聯シテキルコトハ Freud 一派ノ學說ヲ想起シ興味深い點ガアル。

第5項 喉 頭 像

本邦文獻ニ於テ喉頭像ノ明ラカニ記載サレタルモノハ26例ニシテ、ソノ所見ハ内筋麻痺最モ多ク9例、廻歸神經全麻痺6例ニシテ之ニ次ギ、間筋麻痺5例、横筋麻痺並ニ間筋及ビ内筋ノ混合麻痺各2例、内筋及ビ横筋ノ混合麻痺、並ニ内筋、側筋及ビ横筋ノ混合麻痺各1例デアアル。Gutzmann ハ311例ヲ蒐集シ、内筋麻痺183例、間筋麻痺68例、反回神經全麻痺47例、間筋及ビ内筋ノ混合麻痺13例ト記載シテキル。即チ内筋麻痺最モ多イモノノ様デアアルガ、「ヒステリー」性失聲症ニ於テハ常ニ必シモ一定ノ喉頭像ヲ呈シナイコトガ多イ。検査時ニ於テハ有響性ノ發聲ヲナシ、検査終レバ忽チ失聲トナルコトアリトノ記載モアル。且ツ本症ニ於ケル喉頭像ハ必シモ喉頭筋ノ麻痺ノミナラズ痙攣性運動ニヨリテモ失聲ヲ來スコトガアル。Amersbach モソノ38例ノ報告ヲ行フテキル。併シ本邦ニ於テハ未ダ痙攣性運動ニヨリ呟語或ハ失聲トナツタ症例ヲ觀察シタモノハナイ。尙コノ際屢々喉頭炎ノ像ヲ認メルコトガアル。Nadoleczny ハ40%ニ之ヲ認メタト云ツテキルガ、文獻例ニ於テハ6例ニシテ比較的尠イ。Gutzmann, Zumsteeg, Arnoedi, Kessel 等ハ喉頭カタル」中ニ失聲ノ根本原因存シ得ルトシテキルガ、他方Nadoleczny, Imhofer ハ之ニ反對シ、喉頭炎ハ一般ニ輕度ニシテ、音聲障碍ノ原因トハ考ヘラレズ、恐ラク二次的現象デアラウト述ベテキル。私自身ノ經驗シタ6症例ニ於テモ3例ニ於テ聲帯ノ發赤ヲ認メタガ、之ハ臨牀上認メラレル失聲ノ原因タリ得ル程高度ノ發赤乃至ハ腫脹トハ考ヘラレナイ。

第6項 診 斷

「ヒステリー」ノ診斷ニ最モ重要ナルコトハ其ノ症候ガ精神的原因ニヨリテ發シタモノデアラルコトヲ確カメ、且ツ他ノ器質的疾患ニ基クモノデナイコトヲ正確ニ診定スルコトデアアル。「ヒ

ステリー性失聲症ニ於テモ之ト同様ニソノ音聲障碍ガ器質的變化ニ基クモノデナイコトヲ確カメネバナラナイ。併シ前述シタ様ニ「ヒステリー性失聲症ハ「ヒステリー性性格乃至「スチグマタ」ヲ發見セズ、喉頭ノミニ現レル單一症狀トシテ現レルコトモ尠クナイ。私ノ經驗シタ6例ニ於テモ3例ハ全身の「ヒステリー性症候ヲ認メ得ナイ。本邦文獻例ニ於テモ10例ニ於テ身體ニ「ヒステリー性症狀ヲ伴ツタト述ベテキルガ、他ハソノ記載ヲミナイ。恐ラク大部分ハ喉頭ニ於ケル單一症候トシテ來タモノデアラウ。勿論其ノ診斷ノ重點ハ「ヒステリー性全身症候ニ置クベキモノニシテ、知覺障碍(例之知覺過敏、頭痛、知覺異常、知覺麻痺)、運動障碍(例之「ヒステリー性痙攣、「ヒステリー性麻痺、「ヒステリー性牽縮)、精神障碍、ヒステリー性發作。(Charcot ノ癲癇様痙攣期、ヒステリー性轉換期及ビ大運動期、表情の姿勢期、幻覺期)ヲ認メレバソノ診斷ハ比較的容易デアアル。併シ斯ノ如キ全身症狀ナクトモ聲帯麻痺ガ兩側ニ來ルコト、喉頭象ノ不定ナルコト、又咳嗽セシムレバ容易ニ之ヲ行フコトガ出來ル。而モ有響性咳嗽ヲ發スルコトノ多イノハ興味アル點デアアル。自驗ノ6例ニ於テ總テ有響性咳嗽ヲ發セシメ得タモノニシテ、コレハ必ず試ムベキモノト考ヘル。只喉頭ニ同時ニ器質的變化ヲ伴フトキハ慎重ナル注意ヲ要スル。

第7項 療 法

「ヒステリー性性格異常ハ醫療ノミニヨリテハ治癒シ難キモノデアアルガ、「ヒステリー性症候ノ發現スルニハソノ病的素質アル外ニ之ヲ誘起スベキ精神的原因ハ必ず存在スルモノナル故ニ、ソノ原因ヲ除去スルトキハソノ症狀ノ輕快或ハ消失ヲ來シ得ルモノデアアル。「ヒステリー性失聲症ニ於テモ先ヅ之ニ準ジテ治療ヲ行フハ勿論デアアルガ、直接喉頭自身ニ對シテモ治療ヲ行フベキデアアル。ソノ療法ニ關スル記載ハ多種多樣デアアル。

1) Killian ノ發聲療法、コノ方法ハ患者ニ對シテ咳嗽ヲ行ハシメ、ソノ有響性ナルヲ聞カシ

メ、全く失聲シテキナイコトヲ暗示シ、次ニ深吸氣後、呼氣ト共ニ同様ナ響ヲ有スル子音m, n, ヲ發聲セシメル。カクシテ漸次母音、他ノ子音ニ及ボシ、更ニ文章等ヲ讀マシメル様ニスル。此ノ方法ニヨリ横田、光本、久保氏等ガ成功シテキル。

2) Gutzmann ノ練習法 患者ニ深吸氣ヲ行ハセ氣音ヨリ呟語、ソレヨリ正常語ト順ヲ追フテ發音セシメル。發音ニ際シテハ呼氣時ノ始メニ發音サス様ニ注意スル。時ニ喉頭ヲ外部ヨリ押壓シテ器械的ニ聲帶ヲ接近セシメ、發聲ヲ助け且ツ可及的低音ヲ發音サス。私モ自驗ノ6例ニ對シ本法ニ準據シ、良好ナル効果ヲ擧ゲ得タノデアル。Nadoleczny モ本法ニヨリ50%ノ全治、27%ノ輕快ヲ見タト報ジテキル。

3) Kaufmann ノ掩撃療法 (Überrumpelungsmethode), 劇シキ精神衝動ニヨリ正軌ヲ失シタル神經支配ニ對シ再度ノ新精神衝動ヲ與ヘテ、之ヲ元ニ戻サントスル意圖ニ基クモノニシテ、コノ方法ハ精神的衝動ヲ人工的ニ惹起セシメルタメニ強力ナル電流ヲ以テシ、大ナル平板電極ヲ下脊柱部ニオキ、一方正常電極又ハ電氣刷毛ヲ腕ニ作用セシメル。コノ場合電極ハ決シテ喉頭ニ觸ル、可カラズト稱シテキル。斯ノ如クシテ始メ2—3分電流ヲ送り、次デ發聲練習ヲ行ヒ、又電流ヲ通ジテ繰リ返ヘス。併シ私ハ自驗ノ第4、第6例ニ於テ Gutzmann ノ練習法ヲ行

フ前ニ感應電流ヲ喉頭部ニ通ジ、著効ヲ奏シタ。Amers mach モ同様ノ方法ヲ推賞シテキル。

4) Muck ノ球丸療法 直徑約1cmノ金屬球ヲ喉頭鏡下ニ聲門ニ落下セシメ、聲門後連合ニ壓ヲ加ヘテ閉鎖シ、患者ノ窒息不安感ヲ誘發シテ自發的ニ無意識叫聲ヲ發セシメル方法デアル。一度自己ノ叫聲ヲ知り、遂ニ之ガ固定シテ遂ニ正常發聲ヲ得ルニ至ルモノデアル。コノ方法ニヨリ上埜氏ハ成功シテキル。コノ他催眠療法、麻醉療法ヲ用フルモノガアル。

又最近松田教授ハ Rombard 氏現象ヲ應用シ治療効果ヲ擧ゲテ居ラレルガ、本法ハ Bárány ノ騒音器ヲ兩側外耳孔ニ密接セシメ、次ニソノ音響ヲ發セシメ、兩耳ノ聽能ヲ一時的ニ曠置セシメル。ソシテ患者ニ對シテ文章ヲ音讀セシメツ、患者ノ聲ガ出ル様ニナツタヨキ時期ヲ見計ラヒ音響ヲ瞬間的ニ中絶セシメルト患者ノ耳ニ自己ノ高キ聲ガ響ク。茲ニ於テ患者ニ對シソノ發聲ノ可能ナルコトヲ説得シテ發聲練習ヲナサシメルノデアル。本法ニ就テハ Binswanger, Wisner ノ報告ガアルノミデアル。

以上述ベタル如ク「ヒステリー性失聲症」ニ對シテ種々ノ方法ガアルガ、機ニ臨ミ、時ニ應ジ適宜ノ方法ヲ用フベキモノニシテ、Kümmel ノ云ヘル如ク「疾病ヲ治スルモノハソノ方法ニ非ズシテ、ソレヲ行使スル醫師ナリ」トイフ言葉ヲ銘記スベキデアル。

第4章 結 論

本文ニ於テ私ハ私ノ經驗シタ「ヒステリー性失聲症」ノ6例ニ就キ敘述シ、併セテ本邦文獻ニ現レタ本症ニ就キ臨牀的觀察ヲ遂ゲ、ソノ概要ヲ述ブレバ次ノ如クデアル。

1) 性別的ニハ男11例(30.0%)、女25例(70.0%)デアル：

2) 年齢的ニハ20歳以下6例(17.2%)、21—30歳14例(42.2%)、31—40歳9例(27.3%)、41—50歳1例(3.0%)、51歳以上3例(9.1%)デアル。

3) 職業的關係デハ兵士及ビ藝娼妓各5例ニシテ最モ多ク、農業3例、看護婦、女中各2例、商業、尼僧、事務員各1例デアル。

4) 誘因ニ就テハ精神的衝動ニヨルモノ最モ多ク10例、次デ誘因不明ノモノ7例、疾病、過勞各6例、外傷3例、感電、聲破障碍各1例認めラレル。

5) 喉頭像ニ就テハ内筋麻痺9例、反回神經全麻痺6例、間筋麻痺5例、横筋麻痺、間筋及ビ内筋ノ混合麻痺各2例、内筋及ビ横筋ノ混合

麻痺、内筋、側筋及び横筋ノ混合麻痺各1例デア
アル。

6) 診断ニ就テハ全身的「ヒステリー性症候
ヲ参考トスベキデアアルガ、之ヲ伴ハナイ喉頭ニ
於ケル單一症候型モ尠クナイ。故ニ喉頭ニ於ケル
器質的變化ノ有無ヲ檢シ、ソノ診断ノ正確ヲ
期スベキデアアル。

7) 治療法ハ全身的療法ト共ニ喉頭ニ對スル
治療ヲ行フベキデアアルガ、コノ療法ハ多種多様
ニシテ、ソノ手段方法ハ術者ノ熟練經驗將又症
例ニ應ジテ選バルベキモノト信ズル。

附記 本論文稿了後、田中文男氏が「ヒステリー」ニ
ヨル痙攣性失聲症ノ1例ヲ報告シテキルノヲ松田教授
ニ指摘セラレタ(大日本耳鼻咽喉科會報47卷2號、昭
和16年2月)、即チ25歳ノ女ニシテ10ヶ月前ヨリ發病
セル失聲症ニシテ、最初ハ喉頭癌ヲ疑ハレタモノ「ヒ
ステリー性失聲症」ノ一症例デ、痙攣性失聲症型ニシ
テ、暗示ト發聲練習ニテ治癒シタ。「ヒステリー性失
聲症」ニシテ痙攣性型ハ本邦文獻ニテハ恐ラク本例ヲ以
テ嚆矢トスルモノデアラウ。

擱筆スルニ當リ松田教授ノ御教示並ニ御校閲ニ對シ
テ深甚ナル謝意ヲ捧グ。

引用文獻

- 1) Denker u. Albrecht: Lehrbuch der krankheiten des Ohres und der Luftwege. 2) Denker u. Kahjer: Handbuch der Hals- Nasen und Ohrenheilkunde Bd VII. 3) Gutzmann: sprachheilkunde. 4) 北條, 古賀, 軍醫團雜誌, 253號. 5) 川本, 大日本耳鼻咽喉科會報(以下耳科會報ト略ス), 39卷, 7號. 6) 貝田, 日本耳鼻咽喉科全書, 第9卷, 1號. 7) 久保, 耳鼻咽喉科, 10卷, 12號. 8) 同人, 實地醫家ト臨牀, 最新臨牀號2輯. 9) 同人, 耳鼻咽喉科, 2卷, 5號. 10) 同人, 醫學中央雜誌, 大正8年, 965. 11) 同人, 實驗醫報, 6年, 64號. 12) 候, 耳鼻咽喉科, 11卷, 6號. 13) 李, 耳鼻咽喉科, 8卷, 9號. 14) 松田, 大阪醫事新誌, 10卷, 1號. 15) 光本, 醫界展望, 154號. 16) 南谷, 耳科會報, 42卷, 5號. 17) 守谷, 大阪高醫雜誌, 2卷, 3號. 18) 永松, 東京醫事新誌, 2753號. 19) 西山, 耳鼻咽喉科, 4卷, 7號. 20) 岡田, 實驗醫報, 189號. 21) 緒方, 診斷ト治療, 25卷, 12號. 22) 渡邊(孝), 耳鼻咽喉科, 7卷, 11號. 23) 渡邊(章), 醫學中央雜誌, 大正8年, 965. 24) 上埜, 耳科會報, 36卷, 7號. 25) 鹽谷, 神經學雜誌, 19卷, 7號. 26) 辻, 東京醫事新誌, 3100號. 27) 王, 耳鼻咽喉科, 5卷, 1號. 28) 横田, 耳科會報, 22卷, 2, 3號.

症例摘録表

症例番號	報告者	性	年齢	職業	誘因	喉頭像	全身的ヒステリー性症候	療法
1	山田	♀	12		感冒後			喉頭壓迫發育練習
2	横田	♀	22	看護婦	感冒後	聲帶後方三角形ノ間隙アリ, ヨク變化ス		Killian 氏法
3	横田	♀	23	下女	悲嘆	稍發赤, 聲帶閉鎖不全		Killian 氏法
4	久保	♂	23	砲兵	流感後	間筋麻痺, 少シク發赤腫脹ス		
5	久保	♂	23		パラチフス後	内筋, 側筋ノ全麻痺 間筋ノ不全麻痺		

6	久保	♀	32		疲 勞			角膜反射消失，頭髮ノ知覺過敏，眼瞼搖擻ヒステリー球	Killian 氏法
7	久保	♀	27		流 産 後	兩側聲帶閉鎖不全			咳嗽ヲ行ハシム
8	久保	♀	22			内筋，側筋及ビ横筋麻痺			
9	久保	♂	51		食道癌ニテ直達検査後	内筋及ビ間筋麻痺			
10	鹽谷	♀	37		脅 迫	内筋及ビ横筋麻痺			
11	渡邊	♀	27	娼 妓	淋毒性子宮内膜炎ニテ入院中心身過勞，月經中	内筋麻痺		厭人，閉居，視野狭小，左頸部胸部上肢感覺鈍麻，卵巢痛，胃酸味覺鈍麻，左結膜，鼻粘膜，外聽道，咽頭，喉頭知覺鈍麻	
12	南谷	♀	19	看護婦		内筋麻痺		角膜反射減退，膝蓋反射消失	暗 示
13	白石	♀	32					視野狹窄，左腕知覺麻痺	
14	白石	♂	71		雷鳴ニ驚ク			咽喉頭粘膜知覺鈍麻	
15	守谷	♂		歩 兵	激シキ教練中	閉鎖筋麻痺		同上	暗示，感應電流刺激
16	永松	♀	16		胃散ヲ入レタ「オプラート」喉頭部ニテ破レムセカヘル			「ヒステリー性性格，特徴アリ	感應電流刺激
17	李	♀	32			閉鎖筋麻痺			
18	渡邊	♀	30		風邪，妊娠中	内筋麻痺，聲帶發赤		眼瞼搖擻，咽頭反射減退，足脊，足蹠ノ痛覺，觸覺殆ンドナシ，咽頭反射減少	暗示オリバー氏法
19	北大	♂		兵 士	卒 倒 後	間筋麻痺			
20	川本	♂	25	兵 士	泥 醉 後	全閉鎖筋不全麻痺			
21	西山	♂		兵 士	頭 痛	内筋麻痺			
22	王	♂	38		感 電			反射運動消失	暗 示
23	上 埜	♀	42	「バー」ノ女將	ナ シ			胸部，頭部，口圍ニ知覺麻痺，拇指痙攣，歩行不能	ムツクノ球丸療法
24	岡 田	♀	12		ナ シ			口蓋垂，咽頭ノ不全麻痺，頸部知覺ナシ	
25	光 本	♀	28		出征スル夫ヲ見送リシ後	間筋内筋ノ複合麻痺		下肢ノ諸部，腹部，背部下半部知覺麻痺，歩行不能	
26	光 本	♀	32	藝 妓	Wohllust ノ後	間筋麻痺			Killian 氏法
27	光 本	♀	19	女 中	主婦ニ叱責セラレタル後	間筋麻痺			
28	候	♀	22	尼 僧	ナ シ	横筋麻痺ヨリ内筋麻痺トナル		同心性視野狹窄高度ノ子宮發育不全	暗示療法，喉頭マツサージ
29	辻	♂	23	事務員	思春期ノ聲破障礙以來	内筋麻痺			
30	緒 方	♀	38		夫ト口論シ胸部ヲ毆打サレテ以來			胸部ヲ毆打サレシ度ニ嘎聲トナル	暗 示
31	豊 田	♀	28	農	驚 愕	内筋麻痺，輕度發赤		ナ シ	Gutzmann 氏法
32	豊 田	♀	20	娼 妓	精神的，肉體的衝動	内筋麻痺		視野狹窄，角膜反射鈍	Gutzmann 氏法
33	豊 田	♀	30	商	風 邪	内筋麻痺，輕度發赤		左側頭部ニ知覺鈍麻	Gutzmann 氏法
34	豊 田	♀	31	藝 妓	煙草ニムセル	間筋麻痺，輕度發赤		ナ シ	Gutzmann 氏法
35	豊 田	♂	38	農	ヒステリー發作ト共ニ	内筋麻痺		定型のヒステリー性後弓缺張	Gutzmann 氏法
36	豊 田	♀	51	農	ナ シ	全反向神經麻痺		「ヒステリー球」アリ	Gutzmann 氏法